

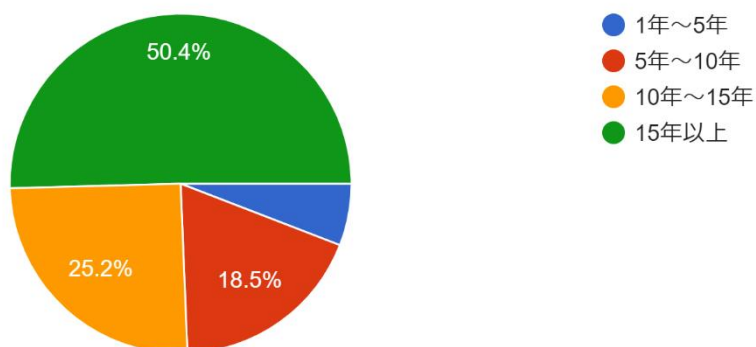
令和5年度「職業実践専門課程等を通じた専修学校の質保証・向上の推進」
「産学連携推進員育成講座の開発」事業

産学連携推進員の資質・要件を明らかにするためのアンケート調査結果

I. 基本データ

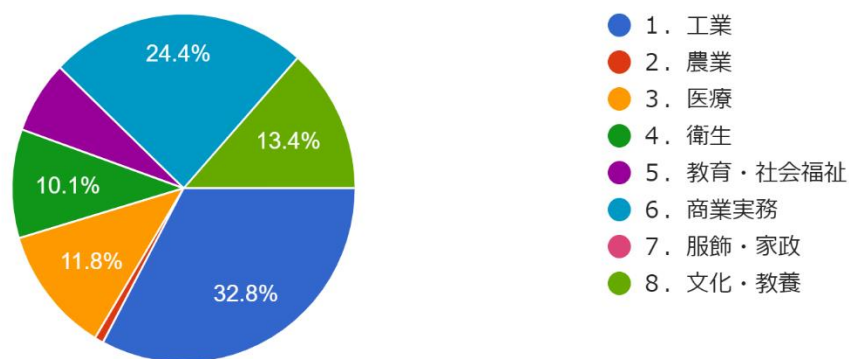
1. 回答期間：令和5年9月19日（火）～9月29日（金）
2. 対象：全国専門学校教育研究会加盟校 約120校 回答数 約115件
- 3.

専修学校における教員経験年数
119件の回答



4.

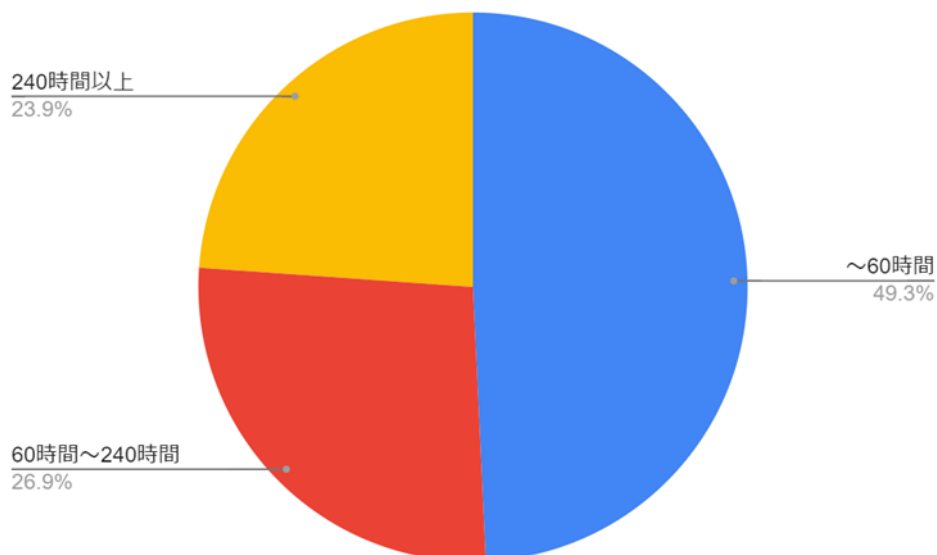
職業実践専門課程の認定を受けている分野 ※一つ選んでください
119件の回答



II. アンケート集計結果

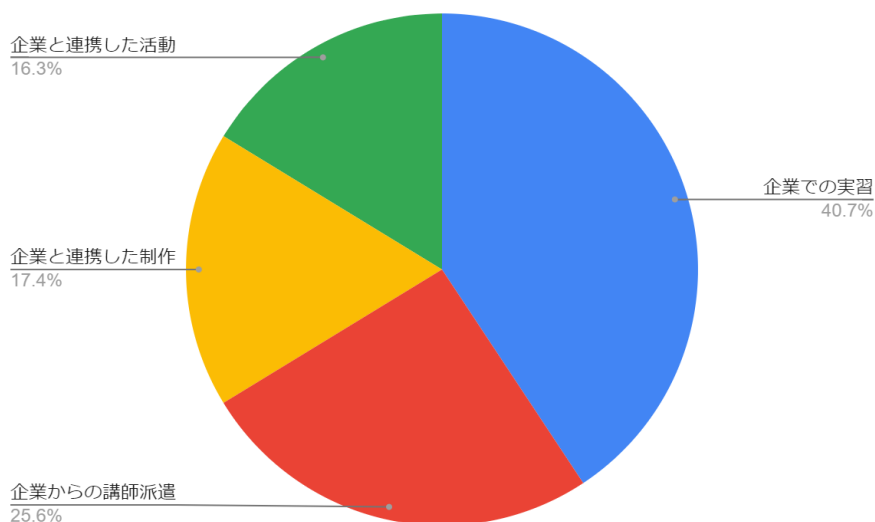
A・現在の産学連携授業の実態について

A1-1・産学連携授業を実施している時間数



- ・産学連携を実施している時間数については半数以上が「60時間以内」となった
- ・「240時間」以上の中で調理分野や看護分野において「1,000時間」を超えるような学科もあった

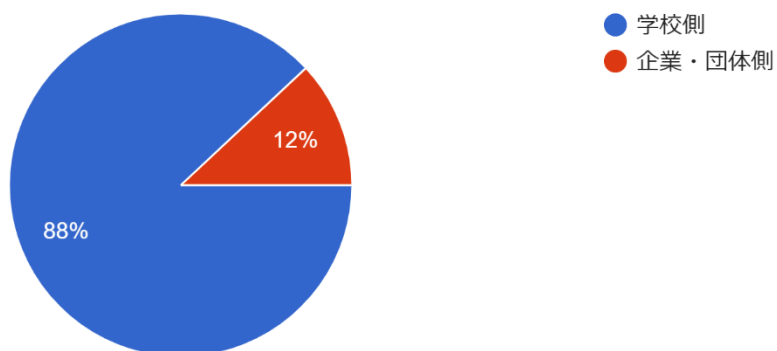
A1-2・産学連携授業で実施している内容



- ・「企業での実習」が約40%となった。内訳としては医療分野や保育分野が多い
- ・次いで授業コマの一部を外部に依頼する「企業からの講師派遣」となった

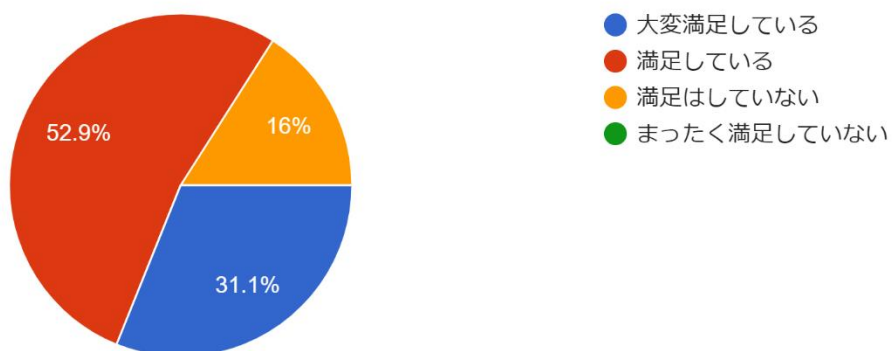
A1-3・現在の主な連携先企業・団体名
・省略

A1-4.連携のアプローチは学校側からか、企業・団体側からか、教えてください
117件の回答



- ・ほとんどが「学校側」からのアプローチという結果であった
- ・「企業・団体側」のケースは市や県といった行政と組んでいるケースが多い

A2. 現在の産学連携授業について、あなたの満足度を教えてください
119件の回答



- ・80%以上が「満足している」結果となった
- ・「満足はしていない」については何かしらの課題を抱えていて、現状を変えていきたいとのこと

「満足していない」と回答したケース

B1-1・現在の取り組みに「満足していない」理由

- ・連携先が見つからない（少ない）
- ・就職につながらない（特にゲーム業界）
- ・コンテスト等の成果が不十分
- ・所属学科と連携先がマッチしない
- ・学生の成長が伴っていない
- ・一部の学生がついていけない
- ・時間的な制約やコスト
- ・希望の連携先と組めない（行政等） 等

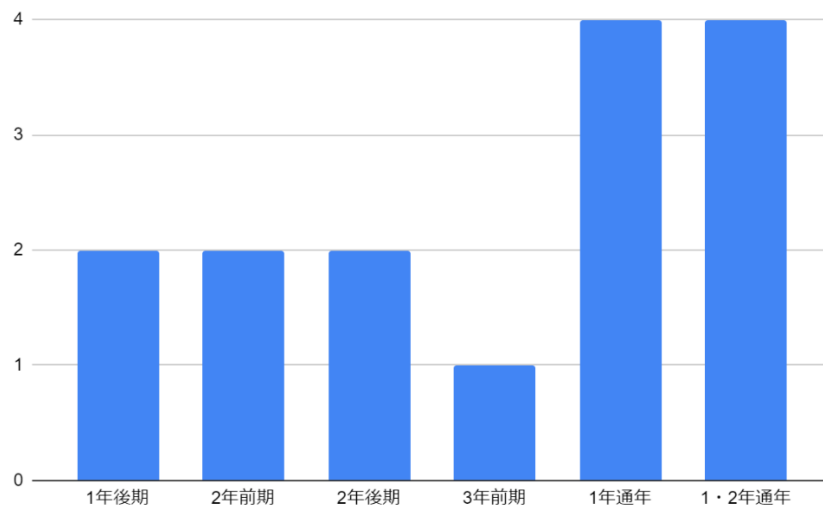
B1-2・課題解決や改善のために行っている方法

- ・教育課程編成委員への協力依頼
- ・カリキュラムの見直し
- ・連携授業の実施時期を見直す
- ・連携先企業を増やす
- ・行政への打診
- ・学生の修学意欲を高める 等

B1-3・課題解決や改善のための校内外の支援

- ・現在の取り組みに「満足していない」との回答をした学校には、ほぼ校内外の支援はなかった

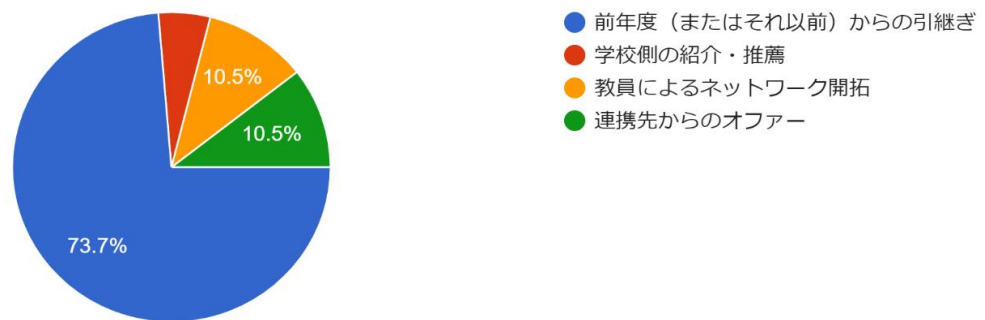
B3・産学連携授業の実施時期



- ・実施時期は「1年通年」「1・2年通年」が一番多かった
- ・スタートのタイミングは入学してからすぐではなく、1年後期以降からが多かった

B4. 連携先の選定はどのように行っていますか？

19 件の回答



- ・約 70%以上が「前年度（またはそれ以前）からの引き継ぎ」となった
- ・「連携先からのオファー」については 10%程度しかなく、圧倒的に学校側からのアプローチによって連携先が決定している

B5、B6・連携授業実施前に連携先に依頼・調整をすること

- ・カリキュラムポリシーの伝達
- ・連携授業に対する相互理解
- ・到達目標
- ・企業側のメリット
- ・学生の状況（学力水準やモチベーション等）
- ・専門学校と大学の違いの理解
- ・スケジュール調整
- ・評価方法
- ・費用面
- ・教育的な意義 等

「満足している」と回答したケース

B2-1. 現在の取り組みに「満足している」理由

- ・実地や実務経験を通じて実践的なスキルや知識を獲得し、学生の成長を実感している。
- ・授業で学んだ理論を実務現場で具体的に展開できる機会を提供している。
- ・学生に合わせた個別指導やサポートを行っているケースもありそれが成長実感につながっている
- ・学生が実際の現場で活動し、仕事やプロジェクトを遂行できる機会を提供している
- ・現実的な課題解決と実利を伴った活動が学習の一部として組み込まれている
- ・連携先企業との協力により、実際の業界の課題に取り組み、提案や解決策を提示する機会を提供している。
- ・企業との協力により学生に新たな視点やアイデアをもたらしており、創造性を育てている。

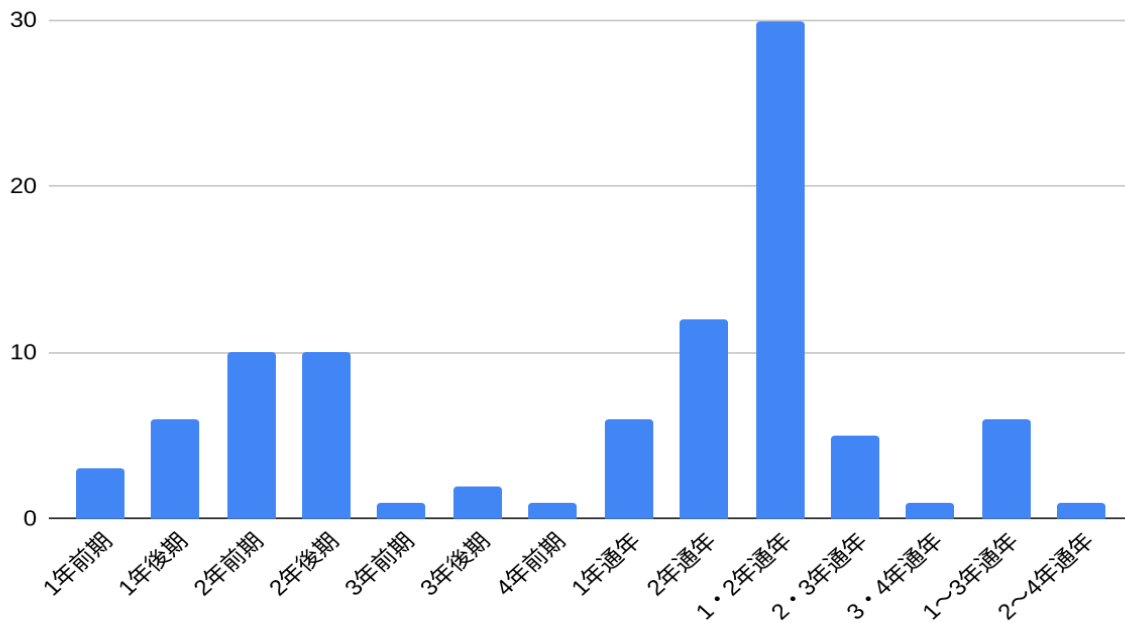
B2-2. 特に、好事例と感じた授業について、どんな点が評価できたか

- ・実際にアプローチができるようになった
- ・制作物が担当者から一定の評価を得た
- ・学生自身が考えて主体的な行動ができるようになった
- ・イベントに学校のブースを設けられた
- ・学生のモチベーション、積極性が上がった
- ・実務が経験できた
- ・学生が何を経験しておくべきかといった事例を知ることができた
- ・教員も一緒に成長できた
- ・学生の良い点や改善点を発見できた
- ・就職についての不一致が事前に解消できた
- ・就職に対する意識が向上した
- ・専門スキルが向上した
- ・学校で学んだことを現場で活かすことができた
- ・厳しい評価をしてくれることで学生の意識が変わった
- ・コミュニケーション能力が向上した
- ・最新の分野に触れる機会が多くあった
- ・地元企業への興味、関心が高まった
- ・コスト意識が向上した
- ・社会問題に関心を抱くようになった

B2-3. さらなる充実のためにどんな校内外の支援が必要か

- ・ 連携先企業の紹介（組織的にマッチングする仕組み） ※特に希望が多い
- ・ 予算の補助 ※特に希望が多い
- ・ コンサル的な支援
- ・ 予算の補助 ※希望が多い
- ・ 学生に対する実習内容の標準化
- ・ 実習できるような環境
- ・ 他校の取り組みを知る機会
- ・ 企業からの講師派遣
- ・ 担当教員の負担軽減

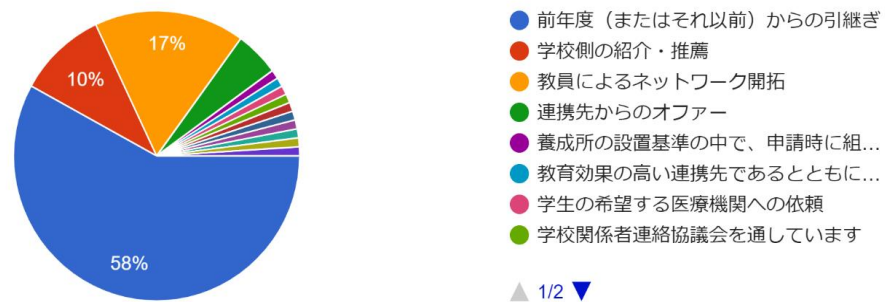
B3. 産学連携授業のカリキュラムにおける位置づけ



- ・ 圧倒的に多かったのは「1・2年通年」実施。
中でも1年後期からスタートして、2年次も継続していくケースが多く見られた。
- ・ 4年制の学科がある場合は3年次に実施しているケースも数件あった

B4. 連携先の選定はどのように行っていますか？

100件の回答



- ・「前年度からの引き継ぎ」が60%近くを占めていて一番多い結果となった。

B5. 外部連携先との事前の打ち合わせの際に大切にしていること

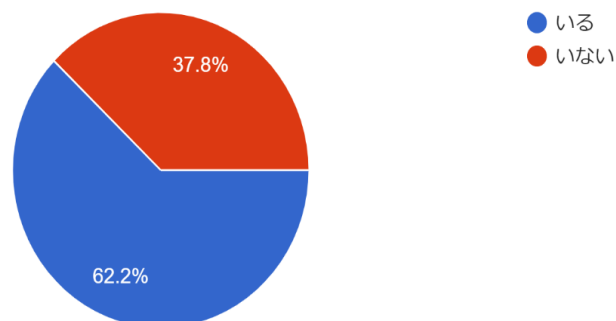
- ・ 実習期間における学生の評価方法については連携先との事前打ち合わせで確認することで、評価基準や項目が明確に共有され、学生の成績評価に関する誤解や不明確な点が回避される
- ・ 定期的な意見交換と修正
- ・ 教育目的や学生の姿勢についても連携先と共有する
- ・ 連携先と学校は互いのニーズを共有し、提案内容について共同で議論して決定
- ・ 前年度の状況や経験が共有され、連携が過去の実績を踏まえて調整されている
- ・ 学生の性格やスキルレベルについての情報が連携先に提供され、実習内容や授業が学生に合わせて調整されている

B6. 授業実施前に連携先とどのような内容の打ち合わせをしているか

- ・ 講義内容および学生の成長と学びの質を向上させることを重視
- ・ 学校と企業・機関の双方にとってメリットがある形かどうか、そのバランス
- ・ 学生に対して、連携先からのプロの視点や実務経験からくる洞察や評価
- ・ 到達目標を共有することが強調、学生の成果や目標を明確にする
- ・ 学生に実務経験を提供できるかどうか、実際の業務を体験する機会がふくまれているかどうか
- ・ 学生や連携先に対する負担やスケジュールの妥当性について
- ・ 学生にとって他校との差別化要因となるようなスキルや経験を提供できるか
- ・ 連携先との間で共通のビジョンや理念を共有し、連携の目的や意義を明確に伝える
- ・ 学生がどのような学習目標を持ち、連携先に対する具体的な要望をもっているか明確に伝える
- ・ 学校の理念や方向性を連携先に伝え、共感を求める
- ・ 双方にとってメリットがあるか
- ・ 予算や負担に関して
- ・ 連携が双方にとって負担が少ない形であるか
- ・ 地域社会の発展に寄与、特に協働的に地域社会への貢献や発展につながる活動にできるか

C1. 貴学に産学連携推進の明確な担当教員はいますか

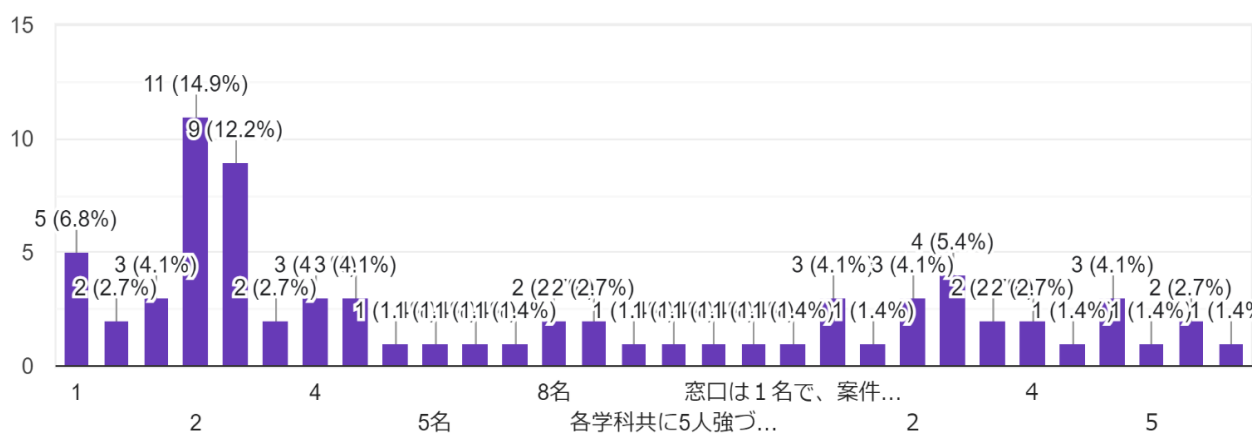
119件の回答



・「いない」と答えた割合が40%近くになった。どこの学校も産学連携を推進している担当職員はいると思うが、それが「明確」になっていない状況が分かった。

C2-1. 産学連携に関わる、学科の教員数は何名ですか ※2023年度現在

74件の回答



- ・学校の規模により多少の幅はあったものの、おおよそ2～3名が平均値であることが分かった。
- ・学科に携わる職員数とイコールになるケースが多く見られた。

C4-2. 求められる「技能」について（※重複しているものはまとめている）

- | | | | |
|---------------|---------|---------------|---------|
| ・コミュニケーションスキル | ※回答数が多い | ・専門スキル | ※回答数が多い |
| ・ビジネスマナー | ・情報収集力 | ・提案力 | |
| ・プレゼンテーション力 | ・近衛力 | ・予算管理 | |
| ・コーディネート力 | ・把握力 | ・教育デザイン | |
| ・フィッティング力 | ・継続力 | ・表現力 | |
| ・事務処理スキル | ・巻き込み力 | ・造形力 | |
| ・ホスピタリティ | ・リサーチ力 | ・計算力 | |
| ・リーダーシップ | ・コーチング | ・説明力 | |
| ・カウンセリング力 | ・情報処理 | ・実行力 | |
| ・問題解決力 | ・傾聴力 | ・協調性 | |
| ・多段思考力 | ・推進力 | ・講義力 | |
| ・計画立案力 | ・国語力 | ・判断力 | |
| ・先見性 | ・観察力 | ・人間力 | |
| ・調整力 | ・発想力 | ・行動力 | |
| ・対話力 | ・人脈 | ・管理能力 | |
| ・交渉力 | ・几帳面 | ・実務経験 | |
| ・企画力 | ・創造力 | ・積極性 | |
| ・運営力 | ・営業力 | ・ファシリテーションスキル | |
| ・指導力 | ・探求心 | | |

C4-3. 求められる「態度」について（※重複しているものはまとめている）

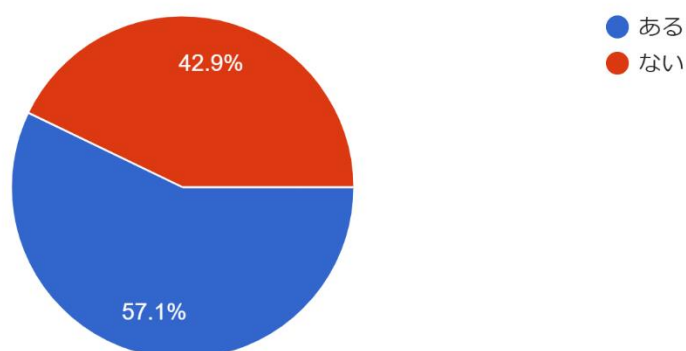
- | | | |
|---------|------------|----------|
| ・協調性 | ・タイムリーな報連相 | ・何とかする姿勢 |
| ・誠実さ | ・変化への関心 | ・情報収集 |
| ・持続性 | ・リスペクト | ・誇り |
| ・責任感 | ・関心力 | ・平等さ |
| ・先見性 | ・好奇心 | ・自信 |
| ・傾聴力 | ・積極性 | ・デザイン思考 |
| ・実践力 | ・学生ファースト | ・SDG s |
| ・社会への関心 | ・広い視野 | ・探求心 |
| ・向上心 | ・国際感覚 | ・ビジネスマナー |
| ・探求心 | ・自己研鑽 | ・信念 |
| ・愛情 | ・幅広い知識 | ・柔軟性 |
| ・主体性 | ・相手への敬意 | ・緻密さ |
| ・謙虚さ | ・創造性 | ・迅速な対応 |
| ・問題意識 | ・感謝 | ・気配り |
| ・行動力 | ・ポジティブ | ・感謝 |
| ・敏捷性 | ・常識 | ・多様性 |
| ・腰の低さ | ・自己主張 | ・観察力 |

- ・耐性
- ・業界理解
- ・トレンド
- ・地域貢献
- ・変化への関心
- ・チャレンジ精神
- ・業界への関心
- ・時事への関心
- ・学ぶ姿勢

C5. 産学連携推進担当教員の経験について

C5. ご自身は産学連携推進担当教員の経験はありますか

119 件の回答



C5-1. 担当教員を務めた際に求められた・必要と感じた資質能力は何でしたか

(※重複しているものはまとめている)

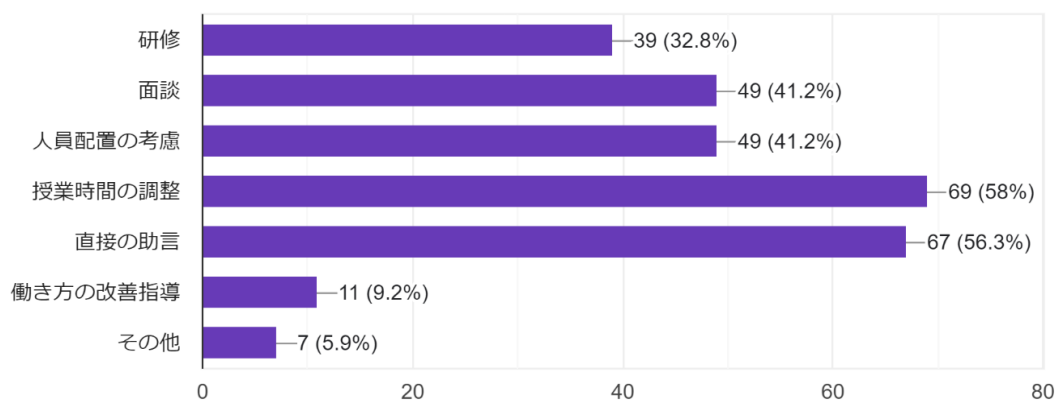
- ・コミュニケーション力 ※回答数が多い
- ・分野の専門知識 ※回答数が多い
- ・多段思考力
- ・調整力
- ・問題解決力
- ・管理力
- ・実践力
- ・改善力
- ・交渉力
- ・発案力
- ・行動力
- ・継続性
- ・緻密性
- ・質問力
- ・人脈
- ・経験
- ・発想力
- ・傾聴力
- ・協調性
- ・判断力
- ・理解力
- ・指導力
- ・向上心
- ・共感性
- ・自律性
- ・協調性
- ・運営力
- ・柔軟性
- ・思考力
- ・判断力
- ・実行力
- ・教育的愛情
- ・知財管理
- ・接客スキル
- ・技術スキル
- ・柔軟な姿勢
- ・デザイン力
- ・パフォーマンス
- ・リーダーシップ
- ・マッチング力
- ・マネジメント力
- ・コストマネジメント
- ・問題解決能力
- ・主体的行動
- ・マネジメントスキル
- ・責任感

- ・プレゼンテーションスキル
- ・カリキュラム設計力
- ・学生の気持ちを受け止める心
- ・学生に対する動機付けができる力
- ・目標を設定してそれを達成するための力
- ・スケジュール管理調整力
- ・全体を俯瞰してみる力
- ・工程表や ToDO 作成と共有
- ・人を動かす力
- ・書類発送などの事務的な能力
- ・相手のオーダーに対してすぐに答えが出せる知識
- ・学校の現状把握
- ・話をまとめて具体的な提案ができること
- ・マーケティング力
- ・企業様との調整力
- ・ヒアリングを通して実際に何をするのが正解なのかが提案できる能力
- ・絶対にやり遂げるといふ何とかする能力
- ・まずやってみるといふ挑戦する気持ち
- ・物事を推進する力
- ・物事の全体を見渡せる力
- ・相手の立場を理解し連携先の事業活動に支障がでないように配慮する姿勢
- ・双方のメリットを考慮しつつも学生の学習成果を最大限に高める取組みとなるよう交渉力
- ・学生が産学連携の学習活動を行った評価を判定する力
- ・専門分野以外からも参考になりそうな情報があれば積極的に吸収しようとする姿勢
- ・自分のなかで勝手に思い込まない姿勢
- ・スケジュール管理
- ・企業との折衝能力
- ・マーケティングスキル (SNS を含む)
- ・学生と企業をつなぐ姿勢
- ・「いま」の調理業態に求められる人材育成
- ・企業の良い点を理解しカリキュラムに落とす力
- ・学生と企業マッチングさせる力
- ・企業の特性を理解してカリキュラムに導入する力
- ・企画・運営力
- ・世の中の変化へのアンテナ
- ・学生をやる気にさせる(興味を持たせる)能力、
- ・知識がない学生に対してわかりやすく伝える能力
- ・相手を引き付ける能力
- ・レスポンスの速さ

- ・周囲の教員の理解
- ・モードへの関心
- ・日々の研究心
- ・勉強会や研究会への参加を通じて外部の方と交流をもつ
- ・ニーズに応える企画力
- ・世の中の変化を捉えられる力
- ・個別ケアの視点
- ・時代の変化を真摯に受け止めることができる態度
- ・学生に対して寄り添える態度
- ・外部企業に対して積極的に対応できる態度
- ・業務遂行能力
- ・一般常識
- ・学生が問題に直面した際に寄り添い共に考える姿勢
- ・実習先がどのような理念を持っており、指導者の方がどのようなことを大切にしているのかを知る
- ・学生の人間的成長を考える姿勢
- ・学生の状況を把握していること
- ・学生にとってメリットのある連携かどうかを見極めること
- ・作品を外に出すクオリティにおいて最終的な調整ができる技術があること

D1. 担当教員に対してどのような支援を行っていますか ※複数選択可

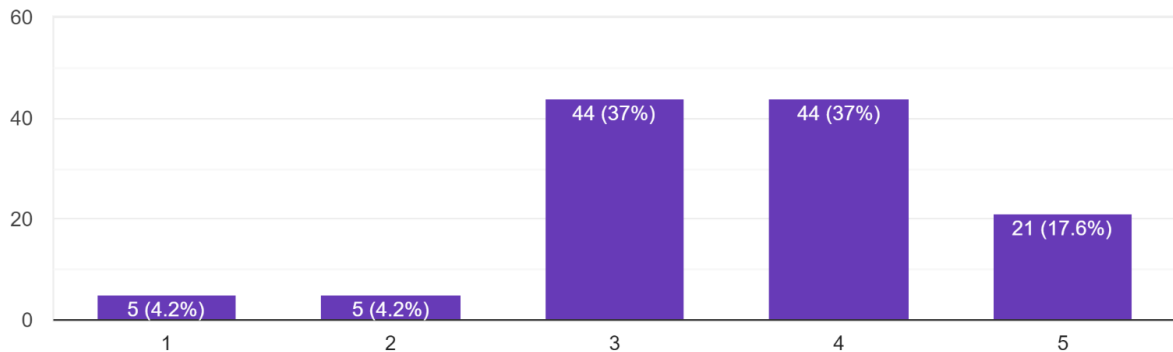
119件の回答



- ・担当教員への支援としては、「授業時間の調整」や経験者からの「直接の助言」等が多かった
- ・「研修」については学校グループ内の組織的な研修や、全専研等を活用しているケースも見られた

D2.

担当教員は連携授業の進捗をどの程度把握、管理し...すか ※ 1がもっとも程度が低く、5が最も高い
119件の回答



- ・約90%以上の回答者が「3」以上をつけていた。
- ・具体的な進捗管理の内容については次ページに記述。

D3.どんな方法・頻度・内容で進捗管理するのが望ましいか（※重複しているものはまとめている）

- ・毎授業終了後、連携先担当者への進捗ヒアリングを行い、次回授業計画を練る。
- ・授業科目の目的や内容について企業側に理解をいただいた上で、授業内容の設定を行う
- ・学生にとってより効果的な演習課題になるように企業と学校が共通の認識・共通の努力をし、実践に近い形での授業について状況把握する。
- ・関連分野の最新事例や現場における最新動向などを企業から教示いただき、授業資料として活用
- ・直接訪問／授業実施前・中・後／目的のすり合わせ、課題確認、学生の提案に対する評価
- ・連携先企業も通常の業務があるため進捗管理は全体のポイントとなるべき時期で良いと思う。
(具体的には序盤・中盤・終盤)
- ・長く続けるためには、計画的で、連携企業にとってもメリットがある内容であること
- ・隔週での進捗状況報告
- ・授業の初中後の最低3回授業進捗、学生の理解度を確認する
- ・実際に授業を行う際は報告がくることになっているので、現状は特に問題ない。
- ・直接会話をしながらも、詳細な動きや結果は記録が残るメールで受ける
頻度と内容は動きが起こり決定する都度で、進捗管理も行う
- ・教員や企業との連絡調整（2週に1回程度）

- ・毎日のミーティング
- ・初めての企画でまだ理想的な進め方も検討中
- ・電話、メール等・年数回・課題の終了ごとに意見交換
- ・日々密に連携して進めることが望ましい
- ・事前、実習中、事後訪問が理想
- ・最近は便利なツールがいっぱいあります
- ・直接面談を月に1回程度
- ・毎日の評価と反省
- ・日々の連絡・報告・相談
- ・フローが出来ているのでそれに基づいて企業様と共有しながら進めている
- ・現場の教員とのコミュニケーションを取りながら取り組む
- ・授業終了後に、反省会と次回に向けての打ち合わせを実施
- ・直接対話、講義毎、記録に残る形
- ・できるだけ毎回授業のたびに進捗確認ができるのが望ましい
- ・1週間に1度程度頻繁に連絡を取る
- ・オンライン上で随時変更点等
- ・普段はメールやデータ等による管理でよいが、月1回程度は口頭による進捗確認を行う
- ・連携授業をする企業の方にもやり方があると思うので、授業の手法やクラスの雰囲気、学びの方向性のすり合わせができればOKだと考えている。あまりやり方に口を出し過ぎても授業が上手くいかないことがあるので。
- ・課題提出／毎授業／課題の進捗管理
- ・毎回来校していただいた際に企業の方と振り返りを行い、次回授業までにどのようにするかを決める。
- ・事前の確認事項や授業の進捗状況など、数回に渡り打ち合わせをして管理する
- ・把握、管理は適度が望ましい。あまり口を出し過ぎると思ったような行動ができず精度が落ちるため
- ・日々のハウレンソウ
- ・講師会の開催を通して、年に1度、教育で目指す理想の状態について連携企業と合意を得て、現状と理想の差を埋めるために、それぞれができることを、お互いが実施していく
- ・指導力アップのための研修と専門的・技術的なスキルを習得する研修を、それぞれの現状の修得状況に合わせ、年度当初に立てる研修計画に基づき予算化し、組織的、計画的に行うことが望ましい
- ・連携先企業も通常の業務があるため進捗管理は全体のポイントとなるべき時期で良いと思う
- ・対面・定期的（最低でも月1回）
- ・困りごとその対応策
- ・成功事例の共有
- ・文書においての取り交わし
- ・毎年度1回は両者の取り決め事項に修正点や変更箇所がないかの確認をする機会
- ・各実施回の終了後での反省・成果の情報共有
- ・オンラインで月に1度、進捗報告と残務確認、次回までの目標など
- ・基本的に各園や施設での実習なので、学生から毎日職員に電話連絡しその日の報告や相談を行う。時間によっては学生が学校に来て先生から指示を仰ぐ。電話の場合はその状況によって助言や対応策を

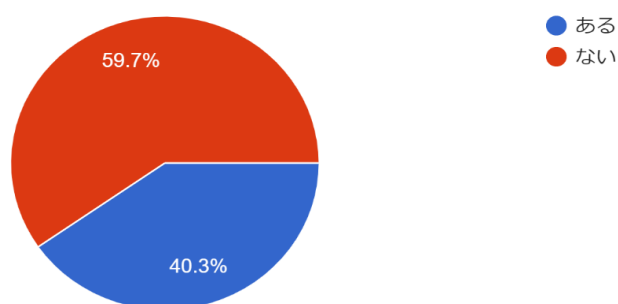
伝える。(実際に本学科が行っていることです)

- ・インターネット上でスケジュールの共有
- ・毎週、授業報告書はいただいております、授業の様子や先方が感じていることなどを共有しているので、この方法は続けていきたい。今年度は必要に応じて企業担当者と打ち合わせを行ったが、月 1 回などミーティングを開き、企業が求めるものを理解していく必要がある。
- ・直接の担当者と細かな話し合いをする。(案件についての無駄話・おしゃべりを含む)
- ・毎回の授業毎シラバスとの突合せ
- ・メールと電話
- ・授業ごとに担任に報告
- ・一般企業以上の IT リテラシーとツールを駆使する
- ・本校は 5 日間と 10 日間の実習中に実習初日に電話連絡と実習後半に 1 度の実習巡回を行っている
また学生から週 1 回の報告をさせている
- ・データ管理を行い、誰でも進捗状況を確認できるようにする
- ・調理校外実習に関しては、事前に受け入れ可能人数を打ち合わせし、業務委託提携書とともに評価内容等を依頼する。実習期間中は連携先に委託し、途中経過のヒアリングを行っている。そのため、常に情報を把握している
- ・授業毎の進捗確認とレビュー
- ・デジタル管理
- ・日々職員とのコミュニケーションをとることによって情報共有をすることが良い。頻度、内容については会話を重ねていると自然に会話の内容の中に実学、研修会の話が出てきて、教科書だけの授業はできれば避けたい話が出ていますので、やはり職員の皆さんとのコミュニケーションは大切であり、毎日するものではないかと思っています。風通しの良い組織を目指しています。
- ・学生が取り組むことを考慮して無理なく、コンスタントに、就職時に役立つ内容
- ・授業終了時に直接話をしていく
- ・毎授業後に話し合い
- ・必要に応じてその都度直接の対話をする
- ・頻繁な顔出し、状況の把握
- ・報告・連絡・相談
- ・担当者以外にも学科で完璧に共有できるのが望ましい。
- ・年に 2 回程度直接お伺いして話をしたり、電話をする
- ・直接伺って依頼、年に 2 回程度は会い、学校の状況や普段から業界の状況について情報交換を行う
- ・大筋のスケジュールやステップ数を決めておき、各ステップのべ切毎に必ず連絡・状況報告を行う
- ・直接お話を伺い評価表をもらう
- ・授業を任せきりにするのではなく、時間が許す限り一緒に授業に参加して進捗状況を把握する
- ・週に一度の授業・打ち合わせ
- ・授業の終わりに進捗について報告させることで管理する
- ・Zoom 等を使用したオンラインで、週に 1 回程度その週に経験したことの報告を受ける
- ・PDCA を意識することが望ましい
- ・実習形式での実践訓練

- ・より実務に近い環境で対面での実施。頻度の理想は半期に 1 回程度。内容的にも継続して実施していけるものがあれば理想的。
- ・進捗状況に合わせて、上長に報告、情報共有。上長も随時、アドバイスする。状況によっては上長、学校長も打ち合わせや交渉に参加する。
- ・事前、直前、最中、直後と進捗目標、学生についての共有を行い次回にむけたフィードバックも行う
- ・一度は顔を合わせての打ち合わせ
- ・直接お話を伺い評価をいただく。インターンシップにおいては、実習の開始、中間、終了時に行う
- ・定期的な教務間のミーティング
- ・毎時間毎に成果物の提出やテストなどによる理解度を確認する
- ・学科教員が依頼を出し年数回、連携担当者と打ち合わせをしながら状況を報告、評価していただく。
- ・統一されたフォーマットの書面（デジタル可）による定期的（授業毎）な報告を基本としつつ、授業の時数に応じたタイミングで面談等を行い進捗確認
- ・半年前くらいから準備確認。事前打ち合わせに沿って、迷惑にならない程度
- ・その都度、確認できる仕組みが望ましいと考える。
- ・臨地指導者との役割分担（学生に関する責任は教員、対象者に関する責任は臨地など）ができれば教員の負担が軽減するが、多忙な現場の状況があり難しい
- ・実際に現場に巡回し、先方の指導者や学生と面談を行うとともに、電話でも進捗状況を確認する
- ・医療機関の担当者と密に連絡を取るのが望ましい
- ・直接、担当者と連絡を取り合い学生個々の状況を把握し、問題があった場合スピーディーに対応
- ・直接対面で、週 1 回程度、授業資料や機材を交えながら行う
- ・クラウドなどでデータ管理
- ・指導者の方や学生と直接・週に 1 度・実習の振り返りシートでの内容
- ・日々のコミュニケーションの他、スプレッドシートなどでいつでも同じ資料を見て確認できる状況

D4. 担当教員以外の職員のかかわり・支援（正式な連携体制）はありますか

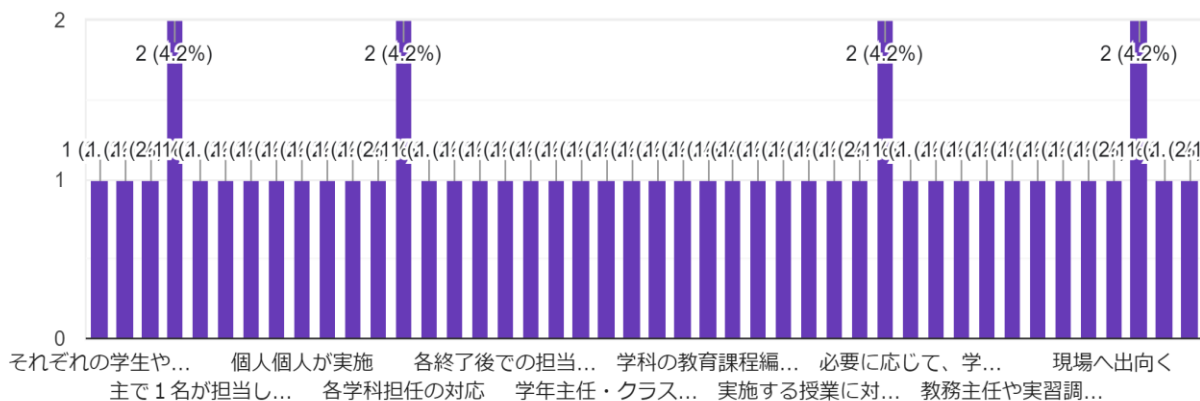
119 件の回答



- ・産学連携については「学科」単位で動くケースが多く、半数以上は担当以外の連携は「ない」
- ・職員の人数が少なく、中々他部署へのフォローが難しい現状も見られた。

D5-1. 現在の連携体制を教えてください

48件の回答

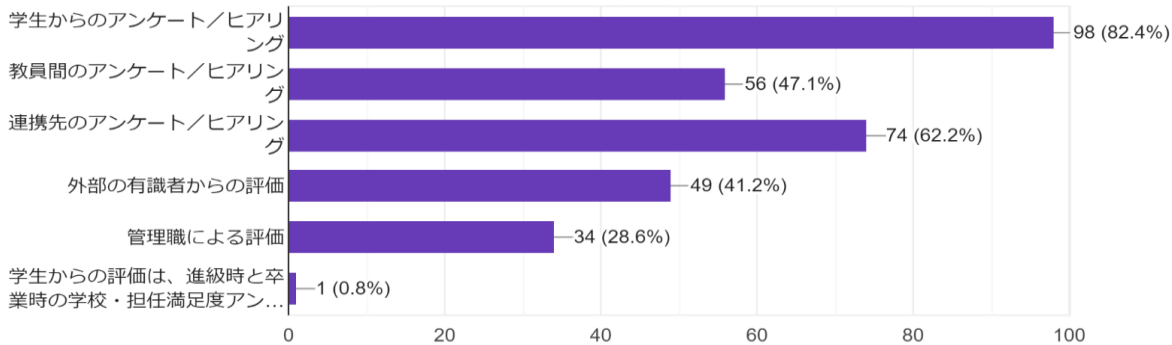


D5-2. 連携を推進する上での組織的な課題

- ・ 職員不足 ※回答数が多い
- ・ 担当者の負担軽減 ※回答数が多い
- ・ 他学科やグループとの連携
- ・ ミーティング時間の確保
- ・ 費用のサポート
- ・ 連携先の開拓
- ・ 担当職員のスキルアップ
- ・ 情報共有
- ・ 統一性
- ・ 連携先企業側からの協力、理解
- ・ インセンティブ、副業化
- ・ 教材開発 等

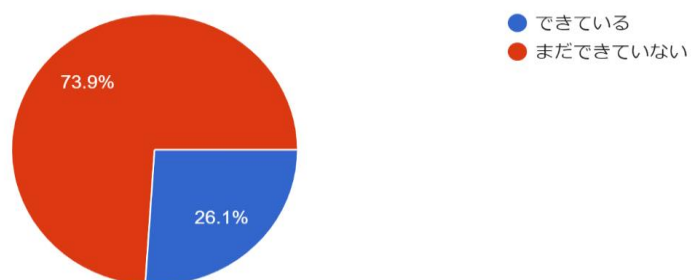
E1. どのように事業評価をしていますか？ ※複数選択可

119件の回答



E2. 事業の評価規準は明確に設定できていますか

119 件の回答

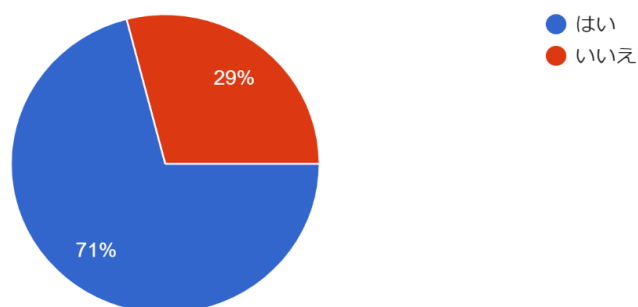


E3-1. 具体的な評価規準

- ・ テスト
- ・ 授業態度
- ・ 出欠席
- ・ 実習評価表
- ・ 学生アンケート
- ・ 学校評価委員会からの評価
- ・ 連携先企業からのフィードバック
- ・ 自己点検・評価報告
- ・ 成果発表会
- ・ 実習日誌
- ・ 指導案
- ・ 教員アンケート
- ・ 授業アンケート
- ・ 作品評価
- ・ レポート
- ・ 企業アンケート 等

E3-2. 評価規準は全職員（校内）に周知されていますか

31 件の回答



- ・複数の評価手法を組み合わせているパターンが多かった
- ・最も多い方法は「学生からのアンケート／ヒアリング」、次に「連携先からのアンケート／ヒアリング」、「教員間のアンケート/ヒアリング」となった
- ・ただ、現状7割強が明確な規準が設定できておらず、「事業評価」するレベルに至っていない
- ・評価規準が設定できている学科については、その7割が全校にその規準が周知されており、全校的な取り組みの理解が推進されている

E4-1. 外部連携先から示される評価規準、または外部連携先と共有化している達成目標

- ・外部連携先から示される基準は特になく、こちらから成績評価の基準をお願いするにとどまっている
- ・職場に即応できる人材育成および学生の技術研鑽意欲と職業意識向上を目標とする
- ・学校で習得した知識、技能を基礎とし、実践する応用能力が養われることを目標としている
- ・明確なものはありませんが、座学の最後には資格試験を行い、認定証を発行してもらっている
- ・SDGs ゴール達成に少しでも貢献できたか
- ・この活動が学生の学びとなったか
- ・教育課程編成委員会等で学生のアンケート等をもとに評価している
- ・自己点検・評価報告書の評価項目の達成及び取組状況において、適切＝4の評価を受けること
- ・気持ちとして、積極的に参加できたか
- ・課題の完成、プレゼン
- ・評価基準は学校と企業間で調整し「ABCD」評価。共有化している達成目標はコメントをたくさんもらえるような作品制作
- ・記録は残しているが、明確な評価基準は設けしていない。
- ・目標売上額
- ・目標設定をしているので先方との振り返りの中で評価共有と次年度の取り組みについて進めている
- ・実習評価表を医療機関の実習担当者が記入
- ・シラバス
- ・愛玩動物看護師国家資格合格
- ・介護福祉士国家資格合格
- ・成果物の出来栄え、授業態度などの平常点、出席率を考慮して評価する
- ・課題解決のための資料作成・提出
- ・ゲーム作品の完成
- ・外部連携先と共有化した達成目標はないが、実習・演習等の目的はあります。美容サロンの業務について、現場経験者の体験を基に具体的・実践的にわかりやすく教授してもらい、今後の各種勉強と関連性を意識し、就活のマナー・心構えを学ぶ。またトップヘアアーティストの技術に触れることで、サロン就業のモチベーションアップし、就職先選定のベースを確立する。
- ・受講態度
- ・ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシーの共有
- ・簡単なアンケート
- ・外部連携先からの評価規準ではなく、併修している近畿大学九州短期大学からの評価基準に準ずる
- ・システムの完成

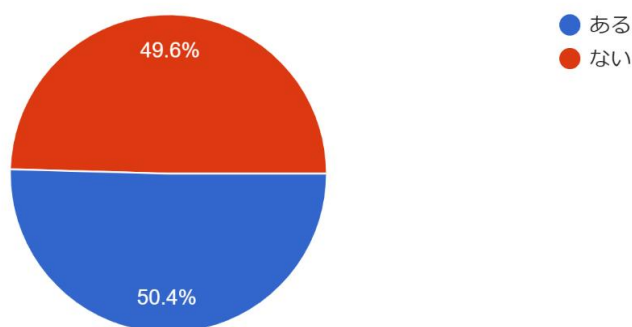
- ・明確な評価基準はないが、次年度への継続依頼はひとつの評価だと受け止めている。
- ・大まかな評価基準であり具体的な達成目標はない
- ・挨拶や礼儀、衛生概念、報告や連絡などの社会人としての基本的な姿勢を身に付ける。
- ・成績評価表
- ・社会に出て様々な人と関わり合うことで、社会性や礼儀を身に付けること
- ・連携内容の成果に対する評価
- ・品質に関わるテスト工程の重要性を学生に習得させること
- ・学生のビジネス文書作成スキル
- ・検定の合格
- ・学生を最低でも各連携先で就職しても問題がないレベルに持っていくこと
- ・キオスクでの販売
- ・実際のデザインに使用される場合は、採用が最終目標。
- ・在学中に30スタイルのカットをマスターするという大枠の目標設定を行い、月ごとに目標のスタイル数を設定して達成できるようにしています。
- ・作品制作、プレゼンテーションを行い、実現可能なものがあれば施工を行う
- ・これからの授業シラバスの作成
- ・サロン実践、実務実践
- ・ショップの立ち上げができていくかどうか
- ・データの分析ができていくかどうか
- ・マーケティング要素が含まれているかどうか
- ・連携企業、クリエイターによる作品評価は、成果物の採用、展示出展される。世に公表する事を評価基準、達成目標とする。
- ・臨床の現場における甘えの許されない厳しさを体験させていただく。
- ・課題の多い日本の農業分野において、社会的に求められている農と食を支える人材を育成するために必要となる知識・技能の習得。
- ・150点満点の90点をクリアすれば合格としている。
- ・身だしなみ、マナー、報・連・相、好感度、実習態度（積極性、協調性、コミュニケーション、責任感）、適性・知識（事務処理、患者対応、職業適性、一般常識、専門知識）
- ・学生の満足度
- ・実習ごとに学校が用意した評価票に基づいて評価していただいている
- ・共有化はしていない
- ・ソーシャルワーク実習教育内容
- ・実習評価ガイドライン
- ・活動の成果はあったと言えるか
- ・学生側から提案または意見交換できているか
- ・企業接触時のマナー
- ・成果物
- ・活動の満足度
- ・授業ごとに成果物やプレゼンなどを行なって評価としているが、評価内容が相対的なものになってい

たり、個々で質が変わっていたりするため、まだ充分とは言えない。

- ・ 5 段階評価で知識、技術、適性を評価。対象者に知識・技術・態度を応用・展開し、技術の深化を図り、歯科衛生士業務の責任や専門職としての機能を高めていくことができる。
- ・ 学生全員の資格取得
- ・ 作業方法
- ・ 順序の理解度
- ・ 怪我をしない心得
- ・ 実務に対する理解度をテストで評価する

E4-2. 産学連携授業について現状改善の予定がありますか

119 件の回答



E5-1. どのように変更、改善しようとしているか

- ・ 評価基準の策定
- ・ 巡回指導
- ・ 連携企業様の変更・改善
- ・ 市の協力
- ・ 現在の科目の選定・見直し
- ・ より可視化して広く認知していくこと
- ・ 正しい PDCA サイクルを回していく
- ・ 実習先と連絡を密にするように
- ・ 企業様にもメリットがある授業に改善したい
- ・ カリキュラムの見直し
- ・ 人材交流 ユニフィケーションの促進

- ・直接就職につながるような取り組み
- ・企業側にパワーポイントなどの資料作成依頼
- ・学科変更に伴い新科目に対する外部との連携。
- ・新任職員のスキル向上
- ・全校での産学連携への推進。
- ・授業後の学生への課題
- ・実習までの準備や事前学習また事後指導の方法についてより良いあり方とする
- ・基本的な活動の場を学校外に設けたい
- ・教員と企業だけでなく、市や県の協力も図りたい
- ・各講師に評価項目を設定し、それに基づいて評価いただく。
- ・時代の変化に対応した新しいものや、前年度よりもっと良いものにアップデートしていきたい

E6.産学連携授業を行った成果としての理想のフィードバック

E6-1.学生から

- ・連携授業をやって良かった
- ・実習で学んだことに対する振り返りと更なる成長
- ・自分が目指す分野に対する前向きな意見（やる気の向上など）
- ・どのようなことが良かったのか、身についたのか、それはなぜかを振り返る どのようなことをもっと学習して実習に臨めばよかったのかを振り返る
- ・〇〇について身についたなど、学生自身が成長を感じられること
- ・災害時にこの成果を発揮したい
- ・会社で働くとはどういうことか知ることができた 未来のために何をすべきか少し分かった
- ・分かりやすい。取り組みやすい。
- ・現在学んでいる業界に対して改めこの職につきたいと思った、改めて目標設定ができた、やりがいを感じることができた、また明日からがんばろうと思えたなど
- ・実務面が経験できて、職業の姿が明確になった。学習意欲が大きくなった。その職業につきたいと、ますます思うようになった。
- ・実務設計に触れることができた
- ・患者（対象者）の立場にたって多面的に考えることができた。
- ・現場の実際を知ることができた。モチベーションが上がった。多くの気付きがあった。
- ・学習成果として効果があったかどうか、学生がそのことを実感することが重要。
- ・楽しく知識が身についた。
- ・成長できた、良い経験になった
- ・指摘されることが的確で、現役エンジニアの視点はすばらしい
- ・年 2 回実施のため、前回の反省を振り返り次回改善できるよう各々が目標を立てられる。また、接客終了後その都度アドバイスをを行い次の接客に活かしている。
- ・満足度が高くやりがいのある達成感の高い取り組みですので理想にほぼ近い声をもらっている
- ・業界の事が学生に在る間からイメージできる。
- ・現場ごとに仕事や職員の役割、雰囲気なども違い実習を経験するたびに学びが多い

- ・企業では、どのような方法で開発し、どんなテーマをこなしているのか実態が把握できた
- ・ワクワク感
- ・就職先の満足度の高さ
- ・自信をもって社会に出ることができる
- ・よりその分野に憧れを持てるようになった
- ・受講することで、実際に官公庁で働き始めた際に活用できるスキルや能力が身についた、役に立ったと言ってもらえること
- ・業界標準のスキルレベルが分かった。そのレベルに到達できるようもっと頑張りたい。
- ・企業様の課題解決方法が学べる
- ・作品制作を通じ、自身の能力向上を実感できたと言われるとよいと思う。

E6-2.外部連携先から

- ・学生を採用したい
- ・新たな発見があった
- ・業界関係者が増えると嬉しい
- ・現在の学生が置かれている環境について理解できた
- ・次の世代に伝える難しさを知った
- ・学生が一生懸命取り組んでいる。
- ・挨拶、礼儀、マナーがしっかりしている
- ・この学生達のためならもっと協力したいなど
- ・学生ならではの発想・アイデアに触れることができた
- ・製作側からでは思いつかない考えを聞くことができた。
- ・学生の成長を感じた
- ・やってよかった
- ・今後も続けたい
- ・やりがいを感じる
- ・感謝
- ・求めた以上の成果に理想に近い声をもらっている
- ・優先的に魅力的な学生を発掘できる
- ・満足感
- ・離職率が改善された
- ・優秀な人材を輩出できている
- ・積極的な学生が多く、自分自身の学びにも繋がる
- ・学生との実習で企業として成長できた
- ・プロの現場でも活躍できる
- ・レベルの高い作品を提出してくる
- ・連携先の求める学生の理想像と、現状の定性評価、その差を埋めるための提案をいただきたい
- ・学生の資質や評価した点、改善点などの具体的なアドバイス
- ・共に学ぶことが出来た。

- ・産学連携をすることにより企業の事業活動にも好影響に繋がったという声。
- ・学生の様子とどのような指導をすることが新人研修にとって大切かを理解できた
- ・保育技術に関することはもちろん、社会人に必要なスキル（主体性やコミュニケーション能力、課題発見力、計画力、傾聴力、柔軟性、規律性）がしっかりしている。など
- ・学校側としての教育効果の評価
- ・授業に夢中に取り組めていた、理想的な姿になったなど
- ・例えば依頼案件がどのような役割を果たし、どのような評価であったか。
- ・授業に対する満足感
- ・自身の持つスキルを全て出してあげたい
- ・地域貢献に役立てることができる
- ・学生へのフィードバックは実施しているが、学生個々に刺さるフィードバックを期待したい。
- ・実習生を受け入れることによって職場に良い刺激をもらったと言われると嬉しい。
- ・学校と現場のギャップについて
- ・慣れない環境で、自らコミュニケーションを取り、率先して仕事をもらうなどの積極性や学ぶ姿勢、また、仕事を最後まで完結させる責任感を身に付けてもらいたい。
- ・学生の求めている事が理解できた
- ・成果があったかないか
- ・採用したい
- ・今回の研修の中で、気になった学生がいます。〇〇さんと〇〇さん、あとでお話しすることでできますか？（企業様からの逆指名で就職内定すること）
- ・成果物に対する高評価、学生の評価が就職につながる など
- ・実現場で重要なことを学生に把握してもらった事
- ・学生の理解度が高かった
- ・学生たちが興味を持って学習し、積極的に授業に取り組んでいるということ。
- ・優秀な学生の採用に繋がる
- ・お客様から喜ばれた
- ・成果をあげることができた。
- ・将来、業界に期待できる人材が見つかった
- ・納得のいく成果物
- ・本学生の不足している力と、現在の業界の状況と学生の能力のギャップ
- ・学生と接することで今の若者が求めているものを感じることができたなど。
- ・うれしかった
- ・学生と企業ともによいよい結果となった。
- ・貴校の卒業生を採用したい。
- ・学生の募集が欲しい
- ・接遇、マナーなどをしっかり教育する。
- ・スタッフ教育にもなった
- ・現在の学生たちのレベル感や企業として必要としている人材像
- ・専門性を学んでいる学生さんと関わって良かった

- ・若者のアイデアで新しいコンテンツが創出された
- ・就職してほしい学生を見つけてほしい
- ・学生の不足している力、現在の業界の状況と学生の能力とのギャップ
- ・即戦力となり活躍してくれた
- ・IT業界に対して理解を深める学生が増え、IT業界を希望する学生が増えた。
- ・たくさん質問をし、メモを取りながら熱心に技術を習得していた。
- ・学生との関りから（連携企業）職員自身の学びに繋がった
- ・業界全体にとってプラスとなる取り組みとなった。
- ・もっと関わりたい、紹介したい
- ・学生の質が下がっている点が気になると指摘を受けることが増加した。
- ・学生の実習先としてのさらなる協力姿勢、就職先としての卒業生募集
- ・学校で学んだことが確認できる（保健の種類を理解できていました等）。
- ・指導したことが出来ているという感想が届くと嬉しい。
- ・講義をして良かった
- ・実際の現場のことを、これから業界を目指す学生に伝えることができ有意義であった
- ・学生の様子が良く分かった
- ・学校でどのようなことを学んでいるのか理解できた
- ・学校と現場と双方で将来の保育者を育てているという意識を持てた
- ・学生が現場に入ることで、現場の意識も高まった
- ・学生のニーズに対する興味がある
- ・教育が行き届いていると感じた 学生の将来が楽しみである
- ・対象学生の採用や領域・業界の発展についての意見
- ・社内には無い新しい発見があった 学生の教育にもっと関わりたい 継続して活動したい
- ・指導した学生の中から、実際に自社に来て欲しい人材が多数いた。
- ・思慮深い誠実な態度で積極性を忘れず実習してほしい。

E6-3. かかわった教員から

- ・次年度はもっとこうしたいというような改善の声が上がる
- ・教授力の向上および授業内容の改善と発展
- ・実習を終了してからの評価面談を行うなかで、よかったことと、今後の課題について話し、改善点については今後どのように取り組み克服をしていこうとするのか計画を考えさせる。
- ・学生の成長が実感できる
- ・今後このようなことで企業と連携したい
- ・学生の主体性、協働性、多様性が育った
- ・改めて学校と社会のお互いの在り方や意義を認識できた
- ・安心して授業を任せられる
- ・学生、企業のアンケートを見て、更に実践的で、有意義な授業を構築したいと思えた
- ・コミュニケーション能力が身につく

- ・職業を目指す意識が高くなり、退学防止にも役立つ
- ・学生の成長が実感できた
- ・学生が意欲的に臨む姿勢が頻繁に見られた
- ・学生満足度が上がったことに気が付く
- ・教える立場での気付きがあった
- ・現場の情報が得られた
- ・教えている方向性に間違いがないことの確認になった
- ・総合評価が高く、即戦力として評価されている
- ・現役エンジニアの話は学生にとって最新情報であるため、勉強になる
- ・客観的な評価ができる。
- ・個々において年々成長を感じる声と学びと時間を共有している声をもらっている、閉鎖的な空間になりがちな学校というステージでやりがいの声が多いので継続したい。
- ・業界の方からの知識やスキルを聴くことができる
- ・学生の成長がうれしい
- ・自信をもって学生を社会へ送り出せる
- ・その他の授業や学生指導に活かせるようになった
- ・生徒自身が成長できるだけでなく、授業にかかわった教員にとっても成長につながる機会であった
- ・できればこの授業を受けて、自分自身もスキルアップしたい。
- ・学生が成長できた
- ・学生が作品を完成させ、業界内定に直結できるようになったと言われるとよい
- ・サロンでの厳しさや、社会のマナーや接客など
- ・整理整頓などの当たり前の事を出来ること
- ・課題ではなく自分の作品に昇華できるよう頑張るって欲しい
- ・学生がイキイキと実習していた
- ・教員から見た学生の理想の状態と現状についての定性評価と、その差を埋めるための方法の提案
- ・連携先の見極めと更なる内容の充実や発展
- ・共に学ぶことが出来た
- ・学生の可能性を体感することが出来た。
- ・学生の成長を通じて仕事のやりがいに繋がった
- ・業界の理解を深め、日々の指導で伝えるべきことの本質が理解できた
- ・実習先の考えや求める能力や技術に対して日々の授業で行っていることが間違っていない。
(現場のニーズに合っている)
- ・外部の方と接する中で社会性を学ぶことができる貴重な体験
- ・指導した学生たちがどのような成長を見せていたか
- ・授業に対する満足感
- ・自身にも刺さることが随所にあった
- ・人前で自分の考えを伝えることができる手助けとなっている
- ・改善案と次年度のアイデア
- ・実習を行う前と行った後の学生の成長を感じてもらい、自身の指導力に自信を持ってもらいたい

- ・実際の作業感覚を再認識できた
- ・コミュニケーション能力、仕事に対する責任感、積極性、協調性が成長してもらいたい
- ・通常の講師による授業と、良いすみ分けができて効果的である
- ・成果があったかないか
- ・今日の内容を授業で生かしていきます
- ・企業の実習担当の方と話ができるようになること。
- ・学生の成長、教育内容の充実
- ・実現場およびテスト工程の重要性を学生に把握してもらえたこと
- ・社会人として必要なビジネス文書作成能力を学生が習得できた
- ・テキストだけの学習ではなく、生きた学びが出来ているということ
- ・学生のスキル向上が目に見えてわかる
- ・企業への就職につながる
- ・うまく協力することで双方の業務負担が減った
- ・連携授業を行ってよかった
- ・この先も連携していきたい
- ・今後も連携を続け、職業意識を高めたい
- ・経験を積んで指導へ活用できた
- ・学生の課題や新たな可能性の発見
- ・サロンの方とも情報共有できることでサロンの現場での最新の情報を知ることができる
- ・国家試験の指導に複数の視点で取り組める
- ・計画が実現してよりよい学生の学びとなった
- ・実習から帰ってきて学生の学習態度が良くなった
- ・教材作成に関するアドバイス
- ・日々の教育の中で社会人としての意識を身に付けていきたい
- ・より実践的なことが学べた
- ・学生のモチベーションアップ
- ・企業、学生と共に先進技術を学び、知識と技術のアップデートとなる。教員として常に最先端、企業の現場を知る事は重要である。
- ・学生の課題や新たな可能性の発見が見える
- ・対外的な交渉が良い経験になった
- ・学生の課題や、新たな可能性の発見
- ・実際の開発業務を理解でき、自ら指導できるようになった
- ・体験実習後の校内実習への係わり方が明らかに変わった
- ・学内の授業では与えることの出来ない学び、体験を学生に経験させることが出来た
- ・教育目標達成状況の改善
- ・新たな取り組みの提言
- ・学生、医療機関共に高い評価を得られたら嬉しい
- ・内容が学生のニーズに合致してよかった
- ・現場理解につながった

- ・学校での学びがどう現場で活かされるのかが分かり、授業改善の足掛かりとなった
- ・企業を選定するうえで複数の選択肢がある
- ・学生の成長が見られた
- ・学生自身の変化や今後の指導の方針
- ・学んだ内容から関連業界就職率のアップが見込めた
- ・やってよかった、大変だった
- ・指示されたことを終了したとき、または頼まれた用件を済ませた後は、必ず報告する
- ・自身もためになる勉強の場になること

E7. 産学連携授業を行うことにより、学生にとってどのような価値をもたらしたいと思うか

- ・将来の確定と就職意識向上
- ・社会人マナーと進路に向き合う機会
- ・社会人基礎力と職業観の醸成
- ・自己の経験を通じた楽しさ
- ・実践的な学びと業界理解
- ・連携授業の重要性と将来の職業選択
- ・資格取得や技術開発
- ・職業人としての倫理観
- ・業界の実態と価値感
- ・社会への貢献と責任感
- ・実際の現場での経験
- ・知識・技術の習得と経験活用
- ・非認知スキルの向上
- ・キャリア向上と就業意欲
- ・主体的な学びと将来像
- ・課題解決力と人間力

結論

アンケート調査結果から、「求められる資質・能力」については、概ね回答の傾向が似ていた。
分野横断的に共通して以下の3つが上げられる

- ・「知識」について＝その分野ならではの要素
- ・「能力」について＝コミュニケーション力を中心に、一般的な汎用的スキル
- ・「態度」について＝先端情報に興味関心を持って触れる、など、「挑戦」「学び続ける」姿勢

次に、現在の産学連携について「満足している教員」については、「領域に関する最先端の情報が得られる」というよりは、高度なインプットと「実務に活かせるスキル習得」という実践的な講義内容が実現している点において産学連携の必要性と価値を実感していることがわかった。

具体的には以下の内容があげられる。

- ・リアルタイムなトピックを吸収することで学習意欲の高まりや、動機づけにつながる
- ・プロである専門家の直接的な指導により、学生は理論だけでなく実務に関する洞察を得る
- ・学生が企業の最新技術や現場経験を得る一方で、企業も新たな視点やアイデアを学生から得られる
- ・地域社会と連携し、地元資源を活用したプロジェクトや活動に参加することで、地元に貢献する
- ・外部連携活動を通じて、学生たちが異なる背景や年齢層の人々とコミュニケーションが増える

また、「満足していない」と回答した教員については、その多くが「カリキュラムの改善」や「事業評価レベルでの不満」ではなく、現状の課題解決視点（物理的な制約、講師や連携先の不足、コーディネート課題）で課題感を持っている。

具体的には以下の内容があげられる。

- ・分野によっては就職先が明確でなく満足な就職支援ができないことから実績につながらない
- ・関連する分野の最新情報や傾向に対するアクセスが制限されており、教育内容を最新のものになっていない
- ・地方においては開発案件や連携協力企業が限られている
- ・企業からの指導により技術向上を図っているが、学生の対外的な評価が低く就職に結びつかない

今後の動きとしては、様々な課題感を持っている先生方へのニーズの対応として、

- ・先生が自ら業界の最新情報や傾向にアクセスできるような仕組みづくり
- ・地方でも可能な形の連携を増やし多様な機会を提供すること、
- ・連携が難しい分野（ゲーム業界など）については戦略的なサポートをしていく

こういった課題に対して少しでもフォローできる「研修」や「教材開発」が今後必要であると考えている。